

明和町産学官連携伊勢麻振興プロジェクト（天津菅麻プロジェクト）

目的

明和町内の公有地（国史跡齋宮跡）や遊休農地で伊勢麻を生産し、麻に関する歴史文化の継承と農業としての麻生産の確立、担い手の確保および明和町内での麻産業の振興を産学官連携により実施し、**伊勢麻の聖地化**および**大麻によるGXの推進**を目指す。

実施体制

株式会社伊勢麻 HEMP INNOVATION 皇學館大学 KOGAKKAN UNIVERSITY 三重県 明和町 麻産業創造開発機構 HIDO 明和観光商社 国立大学法人 三重大学

①大麻草の在来種の保存、品種改良

- 種（日本の在来品種の保存、播種用の種の安定供給、食用/油）の栽培
- 栽培時に生じる葉、花穂の有効活用（本草学、CBD等カンナビノイドの抽出の検証）

②麻生産技術、歴史・文化の継承

- 齋宮跡や明和町内で土地を確保し、生産した大麻を使って精麻（麻繊維）や麻糸、麻布などを生産
- 麻糸、麻布(荒妙)に関わる技術の継承と活用
- 神事用大麻の生産

③麻文化の継承と地域ブランディング

- 麻の栽培～麻布になるまでの一連の過程を体験プログラムの造成
- 麻糸績みの技術継承チームの構築
- 齋宮や御糸地区の歴史文化による地域ブランディング

④産業利用実験農場・施設を実証研究

- 麻の多岐にわたる産業利用に必要な試験農場、研究施設の開設、関連企業の誘致
- ヘンプコークス、スーパーキャパシタ、バイオプラスチック等の新産業用利用の実証研究

⑤新たな大麻産業の創造に関する取組

- 大麻草の活用に関する情報の収集
- 大麻草の活用に関する啓発活動
- 大麻草の活用に関心を持つ企業間の連携
- 認証制度に関する調査研究

大麻でGX宣言（脱炭素先行地域）により明和町が取り組みを支援

• 明和町が脱炭素先行地域を目指し、各府省庁の支援策も活用することで、GXの社会実装を後押しする。
• 上記の取り組みを町として強力にバックアップすることにより2030年度の温室効果ガス46%削減や2050年のカーボンニュートラルの達成、安定的で安価なエネルギー供給につながるエネルギー需給構造の転換の実現、さらには、明和町の産業構造・社会構造を変革し、将来世代を含む全ての町民が希望を持って暮らせる社会の実現を目指す。